



これからの神奈川県立図書館像、 そして図書館経営の「神奈川」方式の確立に向けて

「民間からの政策提言－これからの神奈川県立図書館像」に基づきつつ

神奈川県立図書館パネルディスカッション「県立図書館の新たな方向性」図書館アドバイザーレクチャー
2013年11月14日（木）、於・神奈川県生涯学習情報センター

岡本真

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役／プロデューサー
| 神奈川の県立図書館を考える会 主宰者

＜参考＞自己紹介

1. アカデミック・リソース・ガイド株式会社(2009年～)
 - ▶ 代表取締役／プロデューサー(2009年～)
 - ▶ ACADEMIC RESOURCE GUIDE編集長(1998年～)
2. オーマ株式会社(2008年～)
 - ▶ 代表取締役(2011年～)
3. saveMLAKプロジェクト(2011年～)
 - ▶ プロジェクトリーダー(2011年～)
4. **神奈川の県立図書館を考える会(2012年～)**
 - ▶ **主宰者(2012年～)**
5. NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ(2002年～)
 - ▶ 理事(2010年～)
6. 公益財団法人シャンティ国際ボランティア会(1981年～)
 - ▶ 理事(2013年～)

[PR]

『ライブラリー・リソース・ガイド』

▶ 第4号(2013年8月)

- ▶ 岡本真、鎌倉幸子、米良はるか「図書館における資金調達(ファンドレイジング)の未来」
- ▶ 特集「図書館100連発(2)」

▶ 第3号(2013年6月)

- ▶ 水島久光「記憶を失うことをめぐってーアーカイブと地域を結びつける実践」
- ▶ 特集「図書館における資金調達(ファンドレイジング)」

▶ 第2号(2013年2月)

- ▶ みわよしこ「「知」の機会不平等を解消するために一何から始めればよいのか」
- ▶ 特集「図書館システムの現在」

▶ 創刊号(2012年11月刊)

- ▶ 長尾真「未来の図書館を作るとは」
- ▶ 特集「図書館100連発」



0. 本提言までの経緯と本会・本提言の概要

- ▶ 2012年10月：
 - ▶ 神奈川県が「神奈川県緊急財政対策」を発表
- ▶ 2012年11月：
 - ▶ 神奈川の県立図書館を考える会（本会）、発足
- ▶ 2013年6月：
 - ▶ 本会、「民間からの政策提言－これからの神奈川県立図書館像」を発表
- ▶ 2013年8月：
 - ▶ 本会、神奈川の県立図書館を考える会第3回政策提言シンポジウムを開催

ここまで定例会、勉強会、見学会、シンポジウム等を30回近く開催

0. 本提言までの経緯と本会・本提言の概要

▶ 神奈川の県立図書館を考える会の概要

- ▶ Facebookグループ、Facebookページを中心に参加者を募集（現在約230名）
- ▶ 毎月の定例会等を通し、提言を作成し公表
 - ▶ 過去のイベント開催記録は、提言末尾を参照
- ▶ 特定の政党・会派によらず、広く議論
- ▶ 運営費用はカンパ制で募集
- ▶ 主宰者の岡本真は、神奈川県横浜市において、知識・情報の活用に関するコンサルティングやプロデュースを行う企業を経営

特定の党派によらず、ただし「対立」ではなく、「提言」を軸に活動

0. 本提言までの経緯と本会・本提言の概要

- ▶ 1. 提言にあたって一問題と論点の整理
 - ▶ 1.1. 本提言の位置づけー対立から対話・提言へ
 - ▶ 1.2. 基本的な問題整理
 - ▶ 1.2.1. 複数館体制批判についてー関東南部は全都県が複数館体制
 - ▶ 1.2.2. 二重行政批判についてー県立図書館ならでの役割の存在
- ▶ 2. これからの神奈川県立図書館像
 - ▶ 2.1. ビジョンの再定義の必要性
 - ▶ 2.2. 高度な専門性を持った調査・研究型ライブラリー
 - ▶ 2.3. 高度化のための県立類縁機関の集約
 - ▶ 2.4. かながわ資料のさらなる充実
 - ▶ 2.5. 神奈川県政・行政・議会支援の充実
 - ▶ 2.6. 市町村支援のさらなる展開
- ▶ 3. これからの神奈川県立川崎図書館像
 - ▶ 3.1. 世界基準のサイエンス・産業支援ライブラリーへの昇華
 - ▶ 3.2. 電子ジャーナルへのアクセス保障
 - ▶ 3.3. 既存資料の活用ー社史コレクションと公害資料
 - ▶ 3.4. 実費負担を前提とした個人向けサービスモデルの確立
 - ▶ 3.5. 産業を底上げするためのサイエンス普及事業の取り組み強化
 - ▶ 3.6. 将来的な施設立地ー防災・減災の観点から
- ▶ 4. これからの神奈川県立図書館のためにー制度を巡る論点
 - ▶ 4.1. 論議と合意のための仕組みの不足
 - ▶ 4.2. 解決策としての「図書館協議会」
 - ▶ 4.3. 図書館経営における幹部人事
 - ▶ 4.4. 図書館経営方式の検討
 - ▶ 4.5. ファンドレイジング(資金調達)の検討

1. 提言にあたって－問題と論点の整理

- ▶ 1.1. 本提言の位置づけ－対立から対話・提言へ
 - ▶ 対立構造からの脱却
 - ▶ 「県民・市民の一人ひとりが自らの持つ専門的な知見を政策として提言していくという新たな政治・行政への県民・市民の参画モデル」の構築
 - ▶ 「対立や反対ではなく、対話や提言」
- ▶ 1.2. 基本的な問題整理
 - ▶ 「誤解や誤解に基づく行政批判や図書館批判」の回答
 - ▶ 1.2.1. 複数館体制批判について－関東南部は全都県が複数館体制
 - ▶ 東京、千葉、埼玉も同一
 - ▶ 1.2.2. 二重行政批判について－県立図書館ならではの役割の存在
 - ▶ 二重行政論による県内町村の切り捨て
 - ▶ 都道府県と区市町村の役割の違い
 - ▶ 大規模災害を見据えた体制づくりの大切さ

2. これからの神奈川県立図書館像

- ▶ 2.1. ビジョンの再定義の必要性
 - ▶ 「社会・人文系リサーチライブラリー」の再定義の必要性
- ▶ 2.2. 高度な専門性を持った調査・研究型ライブラリー
 - ▶ 新たな定義に基づく、経済的効果をももたらす競争力のある図書館化
- ▶ 2.3. 高度化のための県立類縁機関の集約
 - ▶ 各機関の独自性や歴史を尊重しつつ、全県的な機能高度化のための集約の必要性（機能的な連動と組織的な統合）
 - ▶ 財政対策への貢献も視野に
- ▶ 2.4. かながわ資料のさらなる充実
 - ▶ 郷土愛やシビックプライドを醸成するコレクションの継続・発展
- ▶ 2.5. 神奈川県政・行政・議会支援の充実
 - ▶ 行政・議会支援による間接的な県民への貢献
 - ▶ 「政治」と「行政」のトータルコストの削減効果も視野に
- ▶ 2.6. 市町村支援のさらなる展開
 - ▶ 開成町、山北町、中井町、箱根町の県民の権利擁護
 - ▶ 同時にさらなるサービス充実

3. これからの神奈川県立川崎図書館像

- ▶ 3.1. 世界基準のサイエンス・産業支援ライブラリーへの昇華
 - ▶ 「科学と産業の情報ライブラリー」からのさらなる発展
 - ▶ 京浜工業地帯の立地企業が有する経済効果の尊重
 - 産業政策としての図書館
- ▶ 3.2. 電子ジャーナルへのアクセス保障
 - ▶ 産業対策としての重要性(他との差別化要因)
- ▶ 3.3. 既存資料の活用ー社史コレクションと公害資料
 - ▶ 独自性の高いコレクションのさらなる活用(経済効果も視野に)
- ▶ 3.4. 実費負担を前提とした個人向けサービスモデルの確立
 - ▶ 従来の法人に加え、個人を対象としたサービス展開
- ▶ 3.5. 産業を底上げするためのサイエンス普及事業の取り組み強化
 - ▶ 基礎科学の重視と普及・啓発のリード役
- ▶ 3.6. 将来的な施設立地ー防災・減災の観点から
 - ▶ 京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区との関係
 - ▶ 川崎市との調整の重要性
 - ▶ 東日本大震災の経験からの学びの大切さ

4. これからの神奈川県図書館のために —制度を巡る論点

- ▶ 4.1. 論議と合意のための仕組みの不足
 - ▶ 行政内での素案形成の課題
- ▶ 4.2. 解決策としての「図書館協議会」
 - ▶ 「県立図書館職員を含む神奈川県の職員や図書館関係の専門家・有識者、一般の県民・市民らによる図書館の運営・経営を論じる場」
 - ▶ 「行政のプロセスの見える化・透明化」
- ▶ 4.3. 図書館経営における幹部人事
 - ▶ 特別職化を含む多様な館長人事・幹部人事の可能性
- ▶ 4.4. 図書館経営方式の検討
 - ▶ 社会教育・文化施設の「地方独立行政法人化」等、従来方式以外の多様な観点での図書館経営のあり方の可能性
- ▶ 4.5. ファンドレイジング（資金調達）の検討
 - ▶ 一事例としての「ふるさと納税」
 - ▶ あるいはクラウドファンディングの活用

5. 神奈川の県立図書館の今後

- ▶ 図書館経営における「神奈川」方式の確立
 1. 神奈川県立図書館における「図書館協議会」の復活要望
 - ▶ 請願等も視野に
 2. 同時に先行しての「神奈川の図書館サポーターズ」(仮称)の結成
 - ▶ 県庁等、自治体職員の市民としての参加も視野に
 3. 「神奈川の図書館サポーターズ」(仮称)によるあるべき「神奈川県立図書館協議会」像の提言
 - ▶ 「図書館協議会」に関する十分な調査・研究の背景
 4. 新生「図書館協議会」との関係の緊密化
 - ▶ 協議会とのインタラクションを前提としたサポーターズ活動



これからの神奈川県立図書館像、 そして図書館経営の「神奈川」方式の確立に向けて

「民間からの政策提言－これからの神奈川県立図書館像」に基づきつつ

神奈川県立図書館パネルディスカッション「県立図書館の新たな方向性」図書館アドバイザーレクチャー
2013年11月14日（木）、於・神奈川県生涯学習情報センター

岡本真

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役／プロデューサー
神奈川の県立図書館を考える会 主宰者